

令和6年度 兵庫県立おこがわ特別支援学校 学校評価

1 一人ひとりの障害特性とニーズに基づいた、連続性のある学びの推進								
2 関係機関との連携を強化し、地域に開かれた信頼される学校づくり								
学校経営の重点	①	児童生徒の実態を把握し、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づいた指導						
	②	教職員の専門性、授業力の向上						
	③	交流及び共同学習の推進						
	④	児童生徒の発達段階に応じた人権教育の推進						
	⑤	将来の自立と社会参加を見据えたキャリア教育						
学部分掌	実践目標		学校経営の重点	具体的な取り組み	評価指標	取り組みの状況	評価グラフ	課題と改善策
学校運営	開かれた学校づくり		③④⑤	学校の情報を家庭や地域社会に発信し、本校の教育活動の理解を進める。近隣の学校との交流及び共同学習を進める。	保護者、関係機関、地域社会への本校の取組等を発信したり、校外での活動を行うことができたか。交流及び共同学習が進められたか。	・本校の取組や情報をHPで発信することができた。各学部で校外での活動を行った。 ・本校小学部と近隣の小学校と交流及び共同学習を行った。		・校外での行事等を中心に各学部からのHPで発信することができた。来年度も継続をする。 ・直接交流ができた学部については、課題を検討しつつ、継続する。
	子どもたちの安全な教育環境の整備	①⑤	児童生徒の運動量の確保や体験活動の充実を目指して、活動場所の提案やとりまとめを行い、教育活動の充実を図る。	児童生徒の運動量の確保や体験活動の取り組みを推進することができたか。	・各学部にて体育の活動場所の希望調査を行い、とりまとめを行ったり、校外学習の計画や実行を促したりしている。		・来年度は体育館が完成するため環境を整える。引き続き校外での活動を多く取り入れられるよう各部に呼びかけ、行事予定を組んでいく。	
	学校とPTAとの連携・協力のより一層の推進	④	ラクメの運用を開始し、職員や保護者が使いやすいよりよい環境作りに取り組む。	使い方のマニュアルを作成し周知を行い、疑問点や要望に対してできる限りの対応ができたか。	・導入したばかりだったため多くのトラブルがあったが、1つ1つに対応し、順調に使える環境設定ができた。		・来年度は登録方法を工夫し、4月の始業式からの運用を目指す。ラクメの会社とも連携し、保護者も教師もより使いやすいよう進めていく。	
総務管理	広報活動の充実		①②④	学校やPTAの活動について情報発信を積極的に行う。	月に1回発行の学校だよりで行事予定を配信したり、ラクメで必要な情報を迅速に配信したりすることができたか。	・学校だよりでは2か月前の行事を配信し、保護者への情報共有を行っている。ラクメでは一斉配信機能を使い、スムーズな配信が行えている。		・今年度要望が多かった保護者用の年間行事予定を早い段階で配信できるよう準備を行う。年間通して行事日程の早めの発信に努める。
	児童生徒の実態を把握し、個別の指導計画に基づいた指導	①②	教師が、児童生徒の「何ができるようになるのか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶか」を日々、言語化できるような仕組みを個別の指導計画作成にあたって導入する。また、個別の指導計画を作成するにあたって「教科マトリクス」を活用して目標を明確にする。	・教科マトリクスに基づいて個別の指導計画を作成することができているか。 ・日々、個別の指導計画の目標や手立てを実施する中で授業や支援方法を改善することができているか。	・教科マトリクスを前・後期で各教科で作成できている。また、個別の指導計画を作成する際に教科マトリクスより目標を入力している。教科マトリクスの内容に関しては年度末には各教科で一覧にまとめていき、引継ぎ資料として毎年保存する。 ・研究日に目標や手立てについて記録に基づいて改善・見直しを実施する手順について確認している。		・教科マトリクスの標準化を進め、各教科の目標設定を統一する。引継ぎ資料の活用を促進するために、研修を実施し、資料のデジタル化を進めます。教務研修などで改善・見直しの手順を明確化し、具体的なステップを文書化することで、一貫性と効果的な改善を図る。	
	教職員の専門性の向上	①②④⑤	学校研究として学校全体で「ポジティブ行動支援」を実施し、実態把握や、情報を共有する。実態に合わせた目標、手立てを検討し、記録に基づいて日々の支援方法や授業改善に活かす。	・児童生徒の目標を教科マトリクスより選び、支援方法や手立てなどをポジティブな内容で検討することができているか。 ・目標を具体的な行動として行動記録をとることができているか。	・研究日を通して、教科マトリクスより目標を選定し、さらにスモールステップで目標を分けている。支援方法やフィードバックについても具体的に手順として記入し、行動記録に基づいて改善・見直しを実施している。		課題は目標の具体化と支援方法の明確化が不十分な点である。改善点は定期的なレビューとフィードバックセッションを設け、行動記録に基づいた見直しを徹底すること。	
生徒指導	通学を含め学校生活を安全かつ円滑に進めるために、必要な業務内容を明確にする。高等部運営においての業務を行う。	④⑤	今後の生徒数増加に向けて、自力通学やスクールバスに関する業務内容を整備する。	各部署と連携して、今後見据えた業務内容を整備することができたか。	来年度のバス台数とルートの見直しや自力通学生の増加に伴う自力通学の規定の見直しを行った。		移転後、スクールバスが発売した後でないとデイスサービスの車が駐車場に入ることが出来ない。下校時間10分前までに確実にバスに乗車できるよう方策を練っていく。	
		④⑤	生活指導課の仕事内容を明確にし、整備すると共にクラブ活動や生徒会活動など高等部運営において必要な業務を行う。	生活指導課の仕事内容を明確にし、整備することができたか。(クラブ活動や生徒会活動など高等部運営も含む)	クラブ活動(卓球部)を今年度から開始した。また、生徒会活動の開始に向けて準備を行っている。		スクールリーダーズから生徒会の移行について計画したり、クラブ活動場所や内容の見直ししたりしていく。高等部が2学年に増え、小中学部とは違う指導も必要になるため高等部のきまりの作成についても協議していく。	
進路指導	児童生徒、保護者の進路選択に関する情報の収集、発信、および有益となる機会の提供。	⑤	進路に関する情報収集を行い、「進路だより」や進路説明会、など適宜機会をもうけて情報を発信する。	進路説明会、「進路だより」の発行、進路関係の案内やお知らせ等を通じて、進路に関する情報の発信ができたか。	高等部では学年初めでの説明会を実施し、進路説明および、進路選択に向けての情報発信ができた。また、各種事業所、企業、職業訓練校の案内などの進路に関する情報を、随時発信している。		収集した新着情報を保護者と教員に、分かりやすい形に整理して発信、確認できる形を作る。「進路だより」は定期発行に至らないため、行事と役割分担を決め、内容と発行機会の確保に努める。「進路説明会」の内容は、教員への周知と共に、保護者には焦点化や2部制など、充実と合理化に努める。	
		①②⑤	福祉事業所見学会や現場見学などを行い、児童生徒と保護者が将来の進路選択に有益となる機会を提供する。	保護者福祉事業所見学会など、児童生徒と保護者が将来の進路選択に向けて有益となる機会が提供できたか。	保護者福祉事業所見学会、進路現場見学会(特例子会社など)や企業ワークフォーラム、事業所合同説明会の案内などで、進路選択の一助となる機会提供を試み、昨年度よりも機会提供を充実させることができた。		高等部の設置に伴い、福祉事業所以外の見学希望のニーズが散見されるためそれに応えていく。保護者の見学機会がより合理的になるよう、同種別の事業所を客観的にカテゴライズできないか検討する。	
自立支援	校内の支援体制を整え、日頃の情報共有と連携を充実させる。	①②	支援部員と担任は、児童生徒の状況を共有し、より良い支援ができるように実態把握し、関係機関につなぐ。日々の連携を心がけ、情報共有シートも活用し、関係機関との連携をより深める。	担任は、クラス・学年・学部で支援の必要な子どもの情報共有をし、支援の方法を検討できたか。必要に応じて、デイへの引き渡し時に情報共有し、情報共有シートも活用できたか。	日頃からクラス・学年・学部で情報をあげてもらい、対応が必要な場合は関係機関につなげた。デイスサービスとの情報共有シートを活用し、子どもの支援について情報共有ができたクラスもあった。		支援部との情報共有ルートを再確認し、担任と連携がより充実するようにする。引き渡し時のデイスサービスとの連携に加え、より一層情報共有シートも活用するように促す。	
	地域のニーズに応じて特別支援学校のセンター的機能を支援につなげる。	①②	地域近隣校への巡回相談・教育相談、研修等を通して特別支援教育の専門性を生かしていく。	相談内容を通じて実態把握を詳細に行い、相手のニーズに応じて丁寧な対応ができたか。	学校見学会を開催し、本校について理解を促した。必要に応じて教育相談を実施した。巡回相談や西宮市の研修会などを通して地域の学校の支援を行った。		地域の特別支援学級担任の研修会等を利用して、巡回相談や教育相談の案内をし、本校のセンター的機能について理解を広める。	
	自立活動の指導が円滑に行えるように校内の体制を整える。	①②	客観的な発達検査を参考に児童生徒の実態把握や課題設定を行う。実態や課題に合わせた支援ができるように外部講師からのアドバイスを共有し活用したり、教材の工夫を行ったりする。	児童生徒の実態把握や課題設定を担当間で共有できたか。外部講師の助言や教材の工夫が生かされ、実態や課題に合わせた支援ができたか。	年度初めにKIDSやS-M社会能力検査に記入し、担任間で実態把握と課題設定ができた。OT,PT,STの外部講師の指導を支援に反映できることもあった。		年度初めには実態把握を行い、外部講師の助言等を受けながら支援に反映していく。担任や学年でも情報共有し、指導内容や教材に活かすようにする。	

保健安全	(保健) 児童生徒の健康の保持増進と感染症予防のための環境整備	①④⑤	・安全に定期健康診断を実施し、より正確な結果をもとに、保護者や医療機関との連携を図る。 ・健康診断に向けた事前学習を行う。 ・登校前の健康観察の徹底と手洗い・うがい等の保健指導を行う。	・児童生徒に応じた検診方法を把握し、学校医と連携を取りながら検診を実施できたか。 ・毎日の健康観察チェックによる感染状況の把握 ・登校前の健康観察の実施と確認ができたか。 ・学年と連携し保健指導(歯みがき、手洗い等)が実施できたか。	・教室に向いての健診等、児童生徒が受けやすいよう学校医の協力を得ることができた。 ・日常の健康観察や家庭等の連携で、感染症にかかる児童生徒はいたが、感染拡大等が起こることはなかった。 ・歯みがき指導等、教材の準備等連携することができた。		・健康診断については、学校医と協力し、より個別対応を充実できるよう環境整備の調整をしていきたい。 ・新校舎に移転後も、新しい設備に対応し、感染症対策を含め、児童生徒の健康管理を家庭及び教職員と連携を継続していきたい。 ・保健指導に活用できる教材等をより充実させたい。
	(防災) 防災教育を通じて、身を守るために必要な防災意識を養う。	②⑤	・年間を通して計画的に防災教育を行い、命を守るための避難行動が取れるようにする。 ・学部・学年に合わせた事前学習を行う。 ・危機管理マニュアルを配布し、職員に周知を図る。	・児童生徒が災害場面に応じた避難行動が取れているか。 ・職員がマニュアルに沿って、各自の役割に応じた行動ができたか。	・火災、地震発生時の避難行動をとることができた。 ・「危機管理マニュアル」を5月に職員へ配布した。マニュアルに沿って、避難訓練や引き渡し訓練、不審者対応訓練を実施した。マニュアルに沿った訓練内容を行うことで、各自役割を理解できるよう実施した。		・今年度は、火災と地震の避難訓練2種類の実施であったが、本校は洪水ハザードマップの危険区域に指定されているため、新校舎になり、校舎に高さもあるため、洪水避難訓練の実施も検討していきたい。
	(食育) 安全安心な給食提供と食育の推進	④⑤	・食に関する指導の全体計画を作成し、児童生徒の実態や課題をふまえた食の指導を行う。 ・衛生管理を徹底し、旬の食材を使用する等、献立内容の充実を図る。	・「食生活動作の発達等に関するチェック」を活用し個々に目標設定し指導できたか。 ・調理業務委託業者と協力して安全安心な給食提供ができたか。	・食に関する課題のある児童生徒については、個別に目標設定し指導している。 ・委託業者と随時協議し、衛生管理の改善を図っている。研修会等で衛生管理に関する最新の情報を入手し、衛生管理マニュアルの見直しをしている。		・実態把握のためのチェック項目を精査し、食育の評価指標があいまいなため指標の設定を検討する。 ・新校舎になり施設設備が変わるため、衛生管理や給食指導に係るマニュアルを見直す必要がある。円滑に移行できるよう、関係職員や委託業者と連携を図り検討していきたい。
小学部	児童の基本的な生活習慣を確立するため、保護者や関係機関と連携し、適切な目標設定に基づいた指導や支援ができる。	①②	・挨拶や身の回りのことが自分で行えるようにするため、チェックリストやKIDSなどの各発達検査結果を基に、実態把握をした上で、個に応じた適切な目標設定をする。	・チェックリストやKIDSなどの発達検査結果を基に実態把握をし、適切な目標が設定でき、達成に導けたか。	実態把握をもとに適切な目標設定は概ねできている。チェックリストやKIDSなど年度初めに確認したが、活用はできていない。クラス内での日々の話し合いはしっかりできているので目標達成に向けても適切に取り組めている。		・個に応じた適切な目標設定ができるよう、今後もチェックリストやKIDSなどの発達検査を元の実態把握を行う。また、クラス内での共通理解が進むよう、学年ごとの教師間の連携を深める。
		①②④	・保護者や関係機関と連携を図り情報を共有し、協力して指導や支援をする	・日々の連絡帳、個人懇談、支援会議などで、保護者や関係機関と情報共有し、目標や支援、指導について確認ができたか。	保護者との連絡は連絡帳だけでなく、必要に応じて電話連絡するなどしっかりと情報共有ができています。関係機関との連携は支援会議やトライアングルプロジェクトの活用で協力して取り組むことができています。		・保護者との連絡には、今後も内容に応じて連絡帳や電話を活用していく。また、各関係機関との連携も必要に応じて、支援会議やトライアングルプロジェクトを利用して積極的に連携を図っていきたい。
	児童がわかって動け、活動量の多い授業づくりをする。	①②④⑤	・授業の始まりと終わりがはっきりわかるよう、児童の代表が前に出るとともに、全員が前を向いて注目できるよう支援する。 ・授業の始めに実態に合った授業の流れを提示する。(文字を読むのが難しい児童には写真やイラストで) ・各授業で、前に出て立つ位置を明確化する。 ・その授業の目標を明確にし、達成するための手立てを考え、児童の待ち時間になるべく少なくなるような構成にする。 ・導入、展開、まとめを意識して授業を作る。	・個々の姿勢を確認しながらあいさつを促せたか。 ・実態に合った授業の流れを提示できたか。 ・毎授業、立つ位置の明確化ができたか。 ・目標や手立てを示し、児童の待ち時間を全体の3分の1以下にできたか。 ・指導略案に導入、展開、まとめを盛り込み、授業ができたか。	・あいさつは全員が取り組めるよう意識できている。 ・授業によっては流れの提示が文字だけのときがある。 ・立つ位置の明確化は概ねできている。 ・待ち時間が少ないように考えているが、活動量が少ない時がある。 ・授業の中での「まとめ」が難しいことがある。		・位置の明確化や授業の流れの提示など、今後もそれぞれの児童に合わせて視覚支援を行っていく。 ・全教員がそれぞれの児童の「分かる」ことや「活動量」について考え授業に取り組んでいけるように小学部内で研修や参考図書などの掲示を行ってきたい。
中学部	生徒個々の社会性を育み、将来の社会的自立に向けた生活習慣の確立を目指す。	①②④⑤	クラス・学年・学部等の単位で、生徒個々に応じた当番・役割を設定し、習慣として自分から取り組めるよう支援する。	生徒個々の実態を把握し、それぞれの課題や強みに応じた係・当番等の活動を設定し取り組めたか。	個々に応じた係・当番等の活動を設定し一定期間継続して支援することで、多くの生徒が習慣として取り組めるようになっていく。		・個々の生徒について3年間の中学部生活の中で幅広い当番・役割を経験できるよう今後もより一層実態把握や課題設定に努めたい。
		①②④⑤	校外学習等の社会的体験活動について、事前・事後の学習を含めて、参加意識を持って意欲的に取り組めるよう支援する。	生徒個々や学年集団の実態に応じた社会的体験活動を計画し、取り組むことができたか。	生徒の生活年齢・発達段階に応じて社会的体験活動を計画し、事前・事後の学習を含めて生徒個々が意欲的に参加できるよう支援を行っている。		・生徒の理解や意欲的な参加の一助となるよう、個別の学習資料を作成するなど学年ごとの工夫を行った。今後も継続していきたい。
	個に応じた基本的な作業的技能的習得を支援するとともに、将来の社会的自立に向けた態度や意欲を育む。	①②④⑤	清掃等の作業的活動について、生徒の実態把握に努め、支援・指導内容を工夫する。	清掃等の作業的活動を、生徒個々に応じて計画し、取り組むことができたか。	各クラスや生徒個々の実情に応じて清掃に取り組む、掃き掃除、拭き掃除、ゴミ集め等、技術の向上を図るとともに継続して取り組んでいる。		・来年度は新校舎への移転があり、清掃や作業的学習の取り組みについて、新たな環境に対応する内容も計画し実施していきたい。
高等部	卒業後の就労に向けた態度や意欲を培う教育	①②④⑤	誰に対してもあいさつができる習慣が身につくよう指導・支援する。	朝の登校時のあいさつ、下校時のあいさつ、職員室等の入退室時のあいさつ、感謝の気持ちを込めたあいさつができるようになったか。	Iコースの生徒は全員2名ずつ順番に、IIコースの生徒については希望者が週1回朝のあいさつ運動に参加している。また、ワークスタディや職業の授業時間にあいさつの練習に取り組んでいる。		授業等では実践できているが、廊下等で出会った際に自ら挨拶することはまだ難しい生徒がいる。今後も継続して取り組みたい。
		①②④⑤	生徒の実態把握に努め、支援内容・支援方法を工夫し、少ない支援で自ら動くことができるとともに、誰の支援でも受け入れられる生徒の育成を行う。	生徒の実態把握を行うことにより、支援内容・支援方法の工夫がどれだけできたか。	クラス担任、ユニット(コース)で生徒の実態把握と支援内容・方法の検討に努め、写真やipad、個人用スケジュール表等を活用して、生徒の主体的な行動を引き出す取組を行っている。		一人一人の生徒の実態に応じた支援内容・方法を実践することにより複数名の生徒の主体的な行動を引き出すことができた。それらの生徒についてはさらにステップアップを目指したい。